



ひと、暮らし
みらいのために
厚生労働省

十日町労働基準監督署

HomePage News

H30.6.4


食料品製造業における労働災害防止について要請しました

十日町労働基準監督署では、平成30年における食料品製造業の労働災害が急増しているため、別添のとおり、関係事業者あてに労働災害防止の徹底を要請しました。



STOP! 転倒災害

～ あわてない 急ぐ時ほど落ち着いて～

 新潟労働局・各労働基準監督署



十日町基署発 0604 第 1 号
平成 30 年 6 月 4 日

関係事業者 各位

十日町労働基準監督署長

労働災害防止対策の徹底について

労働災害防止につきまして、日頃からご尽力いただいていると存じます。

さて、当署管内の平成 30 年における食料品製造業の労働災害は、裏面資料 1 のとおり、5 月末現在で 9 件と、ここ数年では最悪のペースで推移しています。

これらの労働災害の内容は、同封の労働災害発生状況のとおり、作業場内での転倒や機械によるはさまれなどが多数を占めております。

つきましては、裏面資料 2 や同封いたしましたリーフレットを参考に危険場所の点検とその対応、さらに関係労働者への周知など労働災害防止対策のより一層の徹底を図られるようお願いいたします。

照会先

十日町労働基準監督署 担当：監督・安衛課

〒948-0073 十日町市稲荷町 2-9-3

電話 025-752-2079 ファクシミリ 025-752-3864

資料 1



資料 2

なくそう! 製造業における
**はさまれ・巻き込まれ
災害を防止しよう!**

製造工場で作業を行う際には、以下のことに注意し、安全確認を怠らないようにしてください。

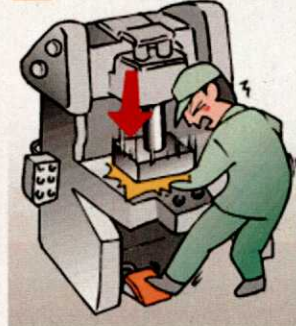
❗ 災害事例 ①



回転体にはさまれる

- 不具合が生じた時には、機械を停止してから作業すること。
- 危険予知訓練及び安全教育を実施・徹底する。

❗ 災害事例 ②



機械誤操作

- 機械に身体が入らないよう囲いを設ける。
- 安全な作業方法を明確にし、不安全行動を禁止する。

❗ 災害事例 ③



機械誤操作

- 機械を掃除するときには、必ず起動装置の電源を切る
- 間違っても電源が入らないよう安全装置を設置し、不安全行動は絶対にしない。

平成30年に発生した食料品製造業の労働災害発生状況

十日町労働基準監督署

災害発生日	業種	事故の型	起因物	傷病性質	傷病部位	休業見込	発生状況
1 H30.04.27	きのこ製造	切れ	手工具	切傷	手指	6日	カッターで部品を切っていたところ、誤って指に突き刺してしまった。
2 H30.04.25	その他食品製造	墜落	昇降機	骨折	腕	2ヶ月	昇降機で荷下し作業中、荷の入れ方が悪く搬器が昇降路に引っかかってしまった。その後、ドアロックを解除し、復旧作業を行っていたところ、誤って昇降路内に墜落した。
3 H30.04.03	きのこ製造	動作の反動	なし	肉離れ	足	3週間	材料を載せた台車を押して何往復かしていたところ、肉離れが発生した。
4 H30.03.30	肉製品製造	転倒	通路など	打撲	頭	10日	製品冷凍庫内を早歩きで移動中、凍結箇所を足を滑らせ転倒した。
5 H30.03.14	その他食品製造	はさまれ	食品機械	骨折	手	9日	自動裁断機の運転中、裁断くずが気になり、機械を停めることなく手を出したため、可動部に指を挟まれた。
6 H30.02.17	肉製品製造	転倒	通路など	骨折	手首	3ヶ月	作業が終了し、清掃を終えて歩行していたところ、濡れていた路面などが原因で転倒した。
7 H30.02.04	飲料製造	はさまれ	コンベア	切断	手指	2週間	作業終了後、コンベアの調子が悪いことに気付き確認を行っていたところ、機械を停めずにカバー隙間から手を入れたため、指を挟まれた。
8 H30.02.01	肉製品製造	転倒	通路など	骨折	手首	40日	場内を移動中、冷凍庫前の凍結箇所を足を滑らせ転倒した。
9 H30.01.31	きのこ製造	転倒	通路など	骨折	足首	2ヶ月	台車で資材を運搬中、よそ見をしていたため、転倒した。
10							



STOP! 転倒災害

プロジェクト

あなたの職場は大丈夫？

転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート



チェック項目		<input type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果は、いかがでしたか？

問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！ 次頁の「見える化」も効果的です!!



まずは、職場内で情報共有

転倒危険場所を見える化しましょう！

転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への共有を図ることが大切です。
危険場所に下のステッカーの掲示を行うなど、転倒の危険を見える化しましょう！

※下のステッカーは、「STOP！転倒災害プロジェクト」のホームページからもダウンロードできます。

切り取り線

転倒危険！



コメント

切り取り線

2月・6月は重点取組期間です!!

STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。 **STOP! 転倒** **検索**

事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、プロジェクトの重点取組期間（2月、6月）には、チェックリストを活用した**総点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

転倒災害の特徴

特徴1 転倒災害は最も多い労働災害!

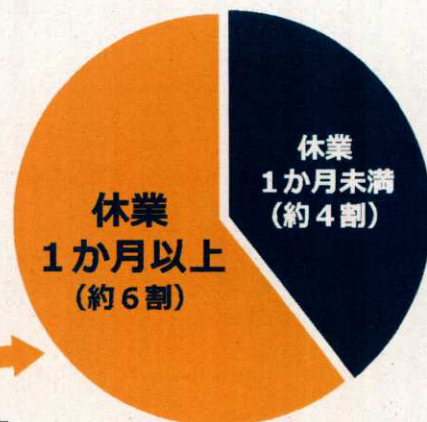
休業4日以上[※]の労働災害、約12万件のうち、転倒災害は**約2.6万件**と最も多く発生しています。

特徴2 特に高齢者で多く発生!

高齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では55歳未満の**約3倍**リスクが増加します。

特徴3 休業1か月以上が約6割!

転倒災害による休業期間は**約6割が1か月以上**となっています。



「平成27年転倒災害による休業期間の割合」 労働者死傷病報告 (厚生労働省) より作成

転倒災害の主な原因

▶ 転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか?

滑り	つまずき	踏み外し
 <p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床が滑りやすい素材である。 床に水や油が飛散している。 ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。 	 <p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床の凹凸や段差がある。 床に荷物や商品などが放置されている。 	 <p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。

転倒災害防止対策のポイント

▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> 歩行場所に物を放置しない 床面の汚れ (水、油、粉など) を取り除く 床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を持って行動 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 足元が見えにくい状態で作業しない 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した靴の着用 職場の危険マップの作成による危険情報の共有 転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください!
「STOP! 転倒災害プロジェクト」

STOP! 転倒 **検索**